NIE実践報告

1．タイトル：**道徳資料に新聞記事を～学年道徳とNIE～**

2．学校名

千葉県長生郡長南町立長南中学校

3．実践者名（代表者名）

蒔田久美子

4．学年

第３学年

5．教科・領域名および受講児童・生徒数

道徳　５９人

6．単元（本時の学習課題）名

３－（３）自然愛・畏敬の念

7．目標(狙い)

人間にとってあまりかかわりのないと思える小さな「絶滅危惧種」の問題を通して、自然と人間とのかかわりについて考え、自然愛の心を育み、自然界の一員としての生き方を考える。

8．評価の視点

・先輩の心情や行動を理解し、その価値について思考を深められたか。
・新聞記事から世界の現状を考え、思考を広げられたか。

9．年間指導計画における本単元の位置づけと時数
（または、単元展開および時数と本時の位置づけ）

３－（３）自然愛・畏敬の念　１時間

10．単元（本時）の学習展開（含む時数）と留意点

①絶滅危惧種について知り、資料「アサヒエビネ」を読み、内容を確認する。
②先輩や主人公の気持ちを考え、自分の考えを深める。
③「消える森林」「生きものを育もう」の新聞記事を読み、世界の自然状況について考える。
④長南町のホタル観賞会について話を聞き、「ホタルの群舞」映像を味わい、自然を守ろうとする気持ちを全体で共有する。
（留意点）
・絵・写真・実験道具などの実物・映像資料をふんだんに用意し、興味・関心を高める。
・世界で進行している森林伐採やその反対の動きについて新聞記事から知らせることで、価値について強く認識させるようにする。
・視聴覚機器を使って、映像や音で自然の美しさを体感させ、それを守ろうとする心情を高める。
・町内の自然に関わる行事を取り上げ、身近な自然を守ろうとする心情を育てる。

11．児童・生徒の反応、感想・意見

「絶滅危惧種を守ろうとする人がいることに感動した。」「自分たちの身近な自然から守っていこうと思った。」「今度のホタル観賞会に行きたいと思った。」「やれることから始めようと思った。」など

12．成果と課題

・新聞記事を活用することで広く世界に視野を広げ、自然について考えることが出来た。
・初めての学年道徳であったが、豊富な資料・写真・映像などのおかげで、興味を持って授業に参加できた。
・授業後「ホタル観賞会、行ってみようか」との話が生徒の間から出ており、自然愛護の心情が高まった。
・資料→世界の現状→町内の自然という一連の流れで、道徳的実践力を育むことができた。
・T.Tによる道徳は初めてだったので、２人の教師の役割分担が難しい。
・豊富な資料をいかに効率よく利用していくかが課題である。